

網走高等学校常呂分校・定時制夜間課程時代の思い出

\*注：昭和23年10月30日 北海道網走高等学校常呂分校として設立認可

定時制（夜間）課程の1学級編成で、常呂中学校の2教室を借用して仮校舎とする

11月13日 第1回入学試験を施行

11月19日 常呂分校の開校式および入学式を挙行

第1学年21名

第2学年15名

第3学年11名

11月26日 授業開始

昭和24年2月27日 各教室への電灯設備工事が完成するが、電力事情が悪化。校舎使用困難のため、一時役場議事堂において授業を行う

昭和25年4月1日 北海道網走南ヶ丘高等学校常呂分校と改称  
3学級許可される

昭和26年3月21日 町議会議事堂において第1回卒業生の卒業証書伝達式を挙行  
卒業生2名

11月22日 独立校舎が完成（校舎坪数123坪）

12月3日 独立校舎落成式挙行

常呂町定時制高校網走分校開校式

昭和27年3月15日 常呂高校独立校舎において第2回卒業証書伝達式および単位証書授与式 卒業生6名

11月1日 北海道常呂高等学校と改称

「創立40周年に寄せて」（抜粋） 長田永子  
「常呂高校四十年史」掲載

（略）昭和23年10月、常呂中学校の校舎の一部を借用して開校したばかりの網走高校常呂分校に、私は24年4月、入学いたしました。新制中学校卒業と同時に地元にできた定時制高校に通学することができ、とても張り切っていました。夜間の勉強はともつらいものでした。仕事の疲れでついうとうとしてしまい、今のような蛍光灯ではなく、当時は薄暗い裸電球で黒板の字が見えないのが何よりも苦勞しました。1年生はほんの少人数のところ1人減り、2人減りし、卒業できたのは男子2名、女子2名、廃校の噂もでした。上級生は皆年配の社会人のおじさんばかり、教室は1つ、おとなと子どもが一緒に机を並べて勉強したのが思い出されます。

鉄道員、教員、信金職員、役場と職場から学校に来る時間がまちまち、みんなが揃つま

で薄暗くなるまでバレーボールをして待っていたものです。

先生も網走から通って来られ、最終の汽車で帰られるという毎日でした。

26年、独立校舎ができ、初代の校長先生が来られ、各教科ごとの先生も配置していただき、次第に高校らしくなり、下級生も大勢でき、活気あふれるようになった頃に卒業しました。(略)

「私の学生時代」(抜粋) 中田浩

「常呂高校四十年史」掲載

私の在学していた昭和20年代末当時は、網走南ヶ丘高校常呂分校の定時制(4年制)課程で、校舎は昭和26年に現在地に独立校舎としてできた3教室に職員室、宿直室だけでした。

この定時制夜間部とは「働きながら学ぶ」をモットーとした制度で年齢層も広く、先生も今と違った意味で気苦労が多かったことと思います。

成人学生の中には煙草を吸う生徒もいましたが、それも休憩時間に職員室で堂々と吸っていたものです。また、仕事の都合か時々アルコールの匂いのする生徒もいましたが、それぞれに分をわきまえていましたので特に問題にはならなかったように思います。

授業時間が夕方5時から9時40分まで、その間、日中の仕事の疲れから机についたとたんに眠り込み、目が覚めたら下校時間ということもありました。

当時、教科によっては本校から先生が来ておられました。今のように車のない時代のこと、宿直室に泊まり、翌朝汽車で網走へ帰られた先生もおられました。その先生方のいる宿直室へ押しかけ、毎日のように夜遅くまで話し込みました。(略)